

ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT (Vol.2)

九州交響楽団
プレミアム・コンサート in 福岡

2023.5/3[水・祝] 17:00開演

アクロス福岡 福岡シンフォニーホール

ごあいさつ

この度は「ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT Vol.2
九州交響楽団 プレミアム・コンサート in 福岡」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションは、京都に本社を置く半導体・電子部品メーカーであるローム株式会社および創業者の佐藤研一郎(1931年～2020年)が中心となって1991年に設立され、若手音楽家の育成やコンサート支援など音楽文化の普及と発展のためさまざまな活動を行っており、2021年に設立30周年を迎えました。

「ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT」は設立30周年を記念し、より多くの方に音楽をお届けするために各地域のオーケストラとともに全国各地でコンサートを開催するプロジェクトとなっております。

コンサートではローム ミュージック ファンデーションが過去に若手音楽家育成事業でかかわり、現在国内外で活躍する音楽家「ローム ミュージック フレンズ」の出演や岩代太郎氏に作曲していただきました設立30周年記念委嘱作品の演奏など華やかなプログラムをお届けします。

素晴らしい音楽家たちが生み出す上質な音楽のひと時をお楽しみください。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
ローム株式会社

PROGRAM

ローム ミュージック ファンデーション設立30周年記念 委嘱作品

岩代 太郎／東風慈音ノ章

Rohm Music Foundation 30th Anniversary Work

Taro Iwashiro/The Chapter of KOCHI-JION

W.A.モーツァルト／ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488

W.A.Mozart/Piano Concerto No.23 in A Major K.488

- I アレグロ Allegro
- II アダージョ Adagio
- III アレグロ・アッサイ Allegro assai

－休憩20分－

10分でわかるレスピーギ「ローマの噴水」と「ローマの松」－構成：新井鷗子－

Knowing “Fontane di Roma” and “Pini di Roma” in 10 minutes –Script:Oko Arai–

O.レスピーギ／交響詩「ローマの噴水」 P.106

O.Respighi/Poema sinfonico “Fontane di Roma” P.106

- I 夜明けのジュリアの谷の噴水 La fontana di Valle Giulia all'alba
- II 朝のトリトンの噴水 La fontana del Tritone al mattino
- III 真昼のトレヴィの噴水 La fontana di Trevi al meriggio
- IV 黄昏のメディチ荘の噴水 La fontana di Villa Medici al tramonto

O.レスピーギ／交響詩「ローマの松」 P.141

O.Respighi/Poema sinfonico “Pini di Roma” P.141

- I ボルゲーゼ荘の松 I pini di Villa Borghese
- II カタコンブ付近の松 Pini presso una catacomba
- III ジャニコロの松 I pini del Gianicolo
- IV アッピア街道の松 I pini della Via Appia

指揮：高関 健 Conductor: Ken Takaseki

ピアノ：菊池 洋子 Piano: Yoko Kikuchi

管弦楽：九州交響楽団 Orchestra: The Kyushu Symphony Orchestra

司会：朝岡 聡 MC: Satoshi Asaoka

MESSAGE & PROFILE

ローム ミュージック ファンデーション設立30周年記念 委嘱作品

東風慈音ノ章

公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションからの
ご依頼を賜り光栄に存じます。

委嘱を賜った際、
「芸術性を探求するがゆえの難解かつコンテンポラリーなアプローチではなく
万人にとって親しみやすい曲調を基本として欲しい」
とのご要望を伺いました。

重ねて、
当公益財団法人が
長年に渡り音楽界の裾野を広げる為の文化貢献に寄与してきた実績や、
今後に向けた展望も鑑み、

「プロフェッショナルなオーケストラによる演奏プログラムとしての作品性」
ならびに、

「アマチュア・オーケストラにもご活用戴ける音楽性」
とのバランスを心掛けました。

演奏における難易度も、過度に上げ過ぎないように配慮いたしました。

日頃から
「教育と文化が国の将来(カタチ)を創り出してゆく」
と信じている私にとって、
この度の御縁は身に余る喜びです。
今一度、御尽力を賜った関係者の皆様へ、
心からの御礼を申し上げたく存じます。

分断された世界において、
「音楽は心在る場所に宿る」と信じております。

2022年12月
岩代 太郎



©Rowland Kirishima

岩代 太郎 Taro Iwashiro (作曲)

1965年東京都出身。東京芸術大学音楽学部作曲科首席卒業、同大学院修士課程首席修了。
在学中は南弘明、近藤譲、松下功、黛敏郎各氏に師事。'91年、修了作品「TO THE FARTHEST LAND
OF THE WORLD(世界のいちばん遠い土地へ)」がシルクロード管弦楽国際作曲コンクールにて
最優秀賞を受賞。同曲は東京芸術大学資料館に永久保存されている。

以後、テレビ・映画・アニメ・舞台など幅広いジャンルで活躍。'99年、TVドラマ『WITH LOVE』のサ
ントラ盤「ONCE IN A BLUE MOON」で日本ゴールドディスク大賞(インストゥルメンタル部門)を受賞。
'00年、NHK大河ドラマ『葵 徳川三代』ではスケール感のある壮大なオーケストレーションを披露し、若手
実力派として認められる。'03、「殺人の追憶」を担当し、アジアはもとより世界から高い評価を得る。'09
年、「Red Cliff Part1」で香港金像獎最優秀音楽賞を受賞。「Red Cliff」はPart1&2共に、国内にお
けるアジア映画の興行成績を塗りかえる大ヒットを記録した。'08年北京オリンピックのシンクロナイ
ズド・スイミングの音楽や、'09年11月に行われた「天皇陛下御即位20年国民祭典」での奉祝曲「太陽の
国」の作曲、'10年からのJRA日本中央競馬会のG1&G2&重賞レースの本馬場入場曲の作曲、'15年4
月には東京オペラシティコンサートホールで、また'16年3月にはサントリーホールで、自らの指揮で自作
オーケストラ作品のコンサートを開催。同年「映画音楽太郎主義～サウンドトラックの舞台裏～」を全音
楽譜出版より上梓。2018年3月、MANGA SYMPHONY「〇」(作画・奏画:浦沢直樹、作曲・指揮:岩代
太郎、管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団)を世界初演。また同年8月～9月、自らの企画・原作・音楽に
よる、演劇と音楽のあたらしいカタチの舞台、奏劇「ライブ・コンチェルト」を紀伊國屋ホールにて公演。
9月には奏劇「ライブ・コンチェルト」コンサートを紀尾井ホールにて開催。映画「FUKUSHIMA
50」において、IMFCA 2020 第17回国際映画音楽批評家協会賞「BEST ORIGINAL SCORE
FOR A DRAMA FILM」部門最優秀賞を受賞。2022年12月には奏劇第2弾となる「Trio～君の
歌が聴こえる」を自身の企画・原案・作曲・演奏でよみうり大手町ホールで開催。2023年7月には
奏劇第3弾「メトローム・デュエット」をよみうり大手町ホールにて公演予定。

また'13年東日本大震災の復興支援事業音楽プロジェクト「魂の詩」や、'21年新型コロナ感染拡大
に際しての音楽啓蒙活動プロジェクト「Kizuna Piano」、さらには'22年NPO法人「オトブミ集～
絆」を立ち上げ、次世代を担う若者たちへの「心の栄養」「心の支え」となるコンテンツ制作にも取り
組むなど、社会貢献活動も積極的に行っている。

2006年より東京都交響楽団理事。

PROGRAM NOTE

W.A.モーツァルト(1756-1791)

ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488

1781年5月、25歳のヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトは主君コロレド大司教と衝突して解雇され、ウィーンでフリーランスの音楽家生活を開始した。弟子からのレッスン料、作曲報酬と並ぶ大切な収入源は、会員制予約演奏会のチケット販売であったことから、彼はその演奏会で自演するためにシーズンごとに数曲のピアノ協奏曲を作曲していった。若い人気作曲家が新作ピアノ協奏曲を初演する演奏会は新しい物好きのウィーンの上流市民たちに大人気となり、予約演奏会の会員数は鰻昇りに増えて、1784年には174人にも達する。彼らの期待に応えるべく、モーツァルトはせっせと五線紙に向かい、この年には6曲、翌1785年には3曲、さらにその翌1786年にも3曲のピアノ協奏曲を書き上げた。

本日演奏されるイ長調の協奏曲は1786年の3曲のうちの1曲で、モーツァルトが1784年から記し始めた自作品目録によれば、完成日付は3月2日である。ただし、使用五線紙の研究から、着手されたのは1784~85年頃であろうと推定されている。楽器編成をみると、木管楽器に華やかな音色のオーボエを欠き、金管楽器もトランペット抜きのホルンのみである。しかも、ティンパニも省かれているため、控えめで落ち着いた響きがこの曲の特徴となっている。モーツァルトのこの時期のピアノ協奏曲の中で、もっとも地味な印象があるが、その堅実で気品ある佇まいのうちに、抑制された情熱も感じさせる傑作となっている。

第1楽章:アレグロ、イ長調、4/4拍子。オーケストラの第1ヴァイオリンによる第1主題の呈示後、木管がこれを反復する。第2主題も第1ヴァイオリン、木管の順で示される。独奏ピアノによる呈示部でもこの2つの主題が平明に奏でられる。弦によるホ長調の新しい主題に導かれて展開部に入り、再現部を経て、モーツァルト自身が書きこんだカデンツァ(即興的な独奏部分)ののち、勢いを減じていって終わる。

第2楽章:アダージョ、嬰へ短調、6/8拍子。この協奏曲の白眉というべき、哀愁の漂う高雅な楽章。シチリアーノ舞曲のリズムを持つ郷愁にみちた主部と、木管とピアノが美しい対話を交わすイ長調の中間部から構成されている。

第3楽章:アレグロ・アッサイ、イ長調、2/2拍子。独奏ピアノが弾むように軽快なロンド主題を奏して始まる。この主題のほか、いくつかの副主題も登場し、最後は澁澗と曲を結ぶ。

O. レスピーギ (1879-1936)

交響詩「ローマの噴水」 P.106

ボローニャに生まれ、34歳からローマに住んだオットリーノ・レスピーギには、ローマに材をとった3部作の交響詩がある。1916年に作曲された本作はその第1作。1917年3月に第三者によって初演されたが不評だった。翌年、巨匠トスカニーニから曲の提供を求められ、期待せずに託したところ大成功を収め、レスピーギの名は一躍国際的に知れわたった。4部は切れ目なしに演奏される。

第1部〈夜明けのジュリアの谷の噴水〉:第2ヴァイオリンの弱奏を背景にオーボエが夜明けの歌を歌う。木管の対話ののちにチェロも加わり、朝もやの中を羊の群れが通り過ぎていくさまが表現される。第2部〈朝のトリトンの噴水〉:突然ホルンが強奏され、噴水の迸りを表す弦のトレモロが3度繰り返し返される。オーケストラの強奏に続きハープ、ピアノ、鐘も加わる。陽光を浴びる噴水の中に、水の精ナイヤードと半海神トリトンの姿が色彩的に描かれる。

第3部〈真昼のトレヴィの噴水〉:低弦の刻みにのってイングリッシュ・ホルンとファゴットが主題を歌い出しクラリネットが引き継ぐ。次いで、金管楽器主体の壮麗な音楽となり、オルガンの和音やファンファーレも響いて海神の行列の通過が描かれる。

第4部〈黄昏のメディチ荘の噴水〉:フルートを中心に木管が憂いを帯びた旋律を歌いチェレスタがそれを彩る。夕暮れの鐘、小鳥のさえずり、木々の葉ずれのうちに夜の帳が降りる。

交響詩「ローマの松」 P.141

1924年12月に完成し同月14日に初演された本作は「ローマ3部作」の第2作。市内4ヶ所の松の描写を導入として、古代ローマの栄光という歴史ロマンを華麗なオーケストラ音楽の世界に映し出す。

第1部〈ボルゲーゼ荘の松〉:ボルゲーゼ荘の松木立の中で遊ぶ子どもたちを賑やかに表現したところで突然静かになり、キリスト教弾圧時代にタイムスリップする。

第2部〈カタコンブ付近の松〉:弱音器付きの低弦の旋律がキリスト教徒の地下墓場カタコンブを暗示する。ホルンからグレゴリオ聖歌の調べが流れ、舞台裏から聴こえるトランペットは賛美歌風の旋律。後半は信徒の祈り声のような旋律がクライマックスを築く。

第3部〈ジャンニコロの松〉:ピアノの短いカデンツァに続きクラリネットが夕暮れの小鳥の鳴き声を模倣する。月光がジャンニコロの丘の松を照らし、夜鶯もさえずる。

第4部〈アッピア街道の松〉:紀元前312年に進軍のために建設されたアッピア街道。霧深い夜明け、この街道の彼方から古代ローマ軍が近づいてくる。その幻想的光景を金管楽器の威力をもって迫真的に描く。

[萩谷 由喜子]

PROFILE



九州交響楽団 The Kyushu Symphony Orchestra (管弦楽)

1953年創立。1973年に改組、のち財団法人化を経て2013年から「公益財団法人九州交響楽団」となり、九州の常設オーケストラとしてアジアの交流拠点都市“福岡”に本拠地を置く。アクロス福岡での定期演奏会をはじめ、天神でクラシック、名曲・午後のオーケストラの自主公演の他、青少年向けのコンサート、オペラやバレエ、合唱との共演、ポップス、映画音楽、ファミリーコンサートなど内容は多岐に渡り、福岡県を中心に九州各地で年間約150回の演奏活動を行っている。

2013年小泉和裕が音楽監督に就任後「ベルリオーズ／幻想交響曲」、「ベートーヴェン／交響曲第9番」、「マーラー／交響曲第8番《千人の交響曲》」「マーラー／交響曲第3番」のCDを発売。これまでに、福岡市文化賞、西日本文化賞、文部大臣地域文化功労賞、福岡県文化賞を受賞。東京2020オリンピック競技大会閉会式のアトラクション用楽曲に、九州交響楽団演奏の『武満徹／「波の盆」』が使用された。



菊池 洋子 Yoko Kikuchi (ピアノ)

ローム ミュージック フレンズ
＜ローム ミュージック ファンデーション2002、2003年度奨学生＞

2002年第8回モーツァルト国際コンクールにおいて日本人として初めて優勝、一躍注目を集めた。その後、ザルツブルク音楽祭に出演するなど国内外で活発に活動を展開し、いまや実力・人気ともに日本を代表するピアニストの一人である。桐朋学園女子高等学校音楽科卒業後、イタリアのイモラ音楽院に留学、フランコ・スカラ、フォルテピアノをステファノ・フィウツィに師事。国内主要オーケストラとの共演をはじめ、ザルツブルク室内管弦楽団、フランツ・リスト室内管弦楽団、南西ドイツ・フィルハーモニー交響楽団、ベルリン交響楽団等と共演。バレエとのコラボレーション公演にも出演し、CD録音も活発に行う。前橋市 Presents 舞台芸術祭芸術監督。2007年第17回出光音楽賞受賞。2023年3月よりウィーン国立音楽大学にて後進の指導にあたる。菊池洋子オフィシャルホームページ yokokikuchipf.com

©Yuji Hori



高関 健 Ken Takaseki (指揮)

現在東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団常任指揮者(2015年4月～)、富士山静岡交響楽団首席指揮者(2021年4月～)、そして2023年4月にこれまでレジデント・コンダクターを務めてきた仙台フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者に就任。サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団定期演奏会では聴衆や楽員から大絶賛を受ける。マルタ・アルゲリッチをはじめとする世界的ソリストや作曲家からも絶大な信頼を得る、緻密で徹底的なスコアの分析からスケールの大きな音楽を作り出す名匠。ウラジオストクやサンクトペテルブルグでの團伊玖磨オペラ「夕鶴」や新国立劇場公演ストラヴィンスキー「夜鳴きうぐいす」とチャイコフスキー「イオランタ」など、オペラでも高評を得る。第4回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、第10回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第50回サントリー音楽賞受賞。

twitter.com/KenTakaseki

©K.Miura



朝岡 聡 Satoshi Asaoka (司会)

横浜市生まれ。慶應義塾大学卒業。テレビ朝日にアナウンサーとして入社し、各種スポーツ中継の他「ニュースステーション」初代スポーツキャスターとして活躍。1995年フリーとなってからはテレビ・ラジオ・CMの他、クラシックコンサートの企画構成や司会でもコンサート・ソムリエとして活動のフィールドを広げている。とくにオペラと古楽ではユニークな評論が注目を集めており、クラシックの語り部としても幅広く活動中。興味深い内容を軽妙な語り口で展開する独自の世界は、新しい芸術ファンのすそ野を広げる司会者として注目と信頼を集めている。日本ロッシーニ協会副会長。東京藝術大学客員教授。

ロームグループについて

ロームは、京都に本社を置く半導体・電子部品メーカーです。その製品は、自動車や産業機器のほか家電製品など、さまざまな電子機器に搭載され、技術革新を支えています。国内では、宮城、静岡、京都、滋賀、岡山、福岡、宮崎に工場を保有し、品質と信頼性に優れた製品をグローバルに供給しています。あらゆる企業活動を通じて文化の進歩向上に貢献することを目指しており、音楽支援活動をはじめとする事業以外の社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

そのひとつとして、ロームは50年間のネーミングライツ取得という形で「ロームシアター京都」の再整備にも協力しました。これまで京都で見ることのできなかった世界クラスの舞台公演が可能になった最新の設備を導入しており、文化芸術の創造・発信拠点として、2016年のオープンから現在まで幅広く活用されています。



ローム株式会社



ローム・アポロ株式会社

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションについて

ローム株式会社の創業者である佐藤研一郎(1931～2020年)は、かつてピアニストを目指していましたが、コンクールで思うような結果が出せず、その夢を諦め、ローム株式会社の前身である東洋電具製作所を設立しました。

しかし、その後も音楽を愛する気持ちを持ち続けた佐藤研一郎とローム株式会社を中心となり、1991年に公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションを設立しました。

ローム ミュージック ファンデーションは、音楽文化の発展と普及に寄与することを目的にさまざまな活動を行っています。特に若い音楽家の支援に力を入れ、奨学援助や学ぶ機会を提供するセミナーなど、支援の形はさまざまです。ここでかかわった音楽家「ローム ミュージック フレンズ」は4,837名(2023年3月現在)にもなります。

また、音楽文化の普及に必要な聴衆の拡大のため、音楽をより身近に感じていただけるようなコンサートを開催、支援しています。



撮影:佐々木卓男

ローム ミュージック ファンデーションの事業について

音楽文化の発展



奨学援助

音楽を学ぶ学生に対して奨学援助を行い、若い人たちの学ぶ環境の充実に取り組んでいます。



ローム ミュージック ファンデーション スカラシップコンサート

現役または奨学金給付終了直後の奨学生によるコンサートを開催しています。



京都・国際音楽学生フェスティバル

世界を代表する音楽学校から音楽学生を京都に招いてフェスティバルを開催しています。



ローム ミュージック セミナー

ローム ミュージック フレンズが講師となり世界を舞台に活躍する音楽家を育成するセミナーです。

音楽文化の普及



ローム ミュージック フェスティバル

ローム ミュージック フレンズが一堂に会す豪華フェスティバル。ローム・スクエアでは、関西の中学・高校の吹奏楽部によるコンサートも行っています。



ローム ミュージック チャンネル「Kyoto Classics」

京都の名所からローム ミュージック フレンズが音楽をお届けするコンサートを映像配信しています。

その他の事業や詳細については、ローム ミュージック ファンデーション 公式WEBサイトをご覧ください。



<https://micro.rohm.com/jp/rmf/>

写真クレジット: *...撮影:大澤 正、他...撮影:佐々木卓男